

社協
鵜一支部だより

第 29 号
2008年(平成20年)9月30日
発 行
社協鵜沼第一連合支部
編 集
社協鵜一支部編集委員会

通常総会 開催

平成20年度

事業計画
予 算
役 員
決 定

六月一日(日)鵜沼福祉センターに於いて、鵜沼中学校、西垣校長を始め、鵜沼第一小学校、清水校長、市社協、野村氏を来賓に迎え、平成二十年度の通常総会が開催された。総会は推進委員会のもと、林古市場区長が開会のことばを述べたあと、横山連合会長、社協鵜沼第一連合、田井支部長が挨拶に立った。続いて来賓挨拶のあと議題に入り、議長に梶田小伊木区長を指名、事務局より出席状況の報告、本総会の成立を確認し、議案の審議を行った。事業計画(案)、収支予算(案)、は総て満場一致で承認され、最後に柳沢羽場区長が開会の宣言をし、総会は終了した。



お年寄りに心をこめて

暑中見舞

おじいちゃん おばあちゃん

いつまでもお元気で!!

夏休みに近い7月、鵜沼第一小学校の皆さんによる暑中見舞ハガキによる慰問が実施されました。

80才以上の高齢者と60才以上の一人暮らしの皆さんに「暑い夏を元気に乗りきってください」の願いを込めたエールを送り、地域のお年寄りと子供達の交流による福祉の輪を一層広げました。

福祉座談会

7月6日

開催!!

鵜沼福祉センター



岐阜県知的障がい者相談員 田井 直美氏

今年の福祉座談会は岐阜県知的障がい者相談員、田井直美氏を講師に招いて「地域に住む障がい者たち」と題して、知的障がい者を自ら育ててこられた経験・現状など1時間半にわたるお話しに耳を傾けた。後日少年自然の家での障がい者の集う会に参加され、地域における活動も積極的に参加され、明るい人柄で参加者のサポートをされる姿には感動しました。

親子ふれあい映画会

●7月22日(火)●
鵜沼第一小学校体育館

夏休みに入って四日目の夕方、鵜沼第一小学校体育館には、お子様連れで約80名と役員が集まりました。上映された映画は岸川悦子原作の「がんばれまあちゃん」耳の聞こえない「まあちゃん」とおばあちゃんの心暖まるふれあいと家族愛が地域の人達の応援で手話によるコミュニケーションも広がり、明るく成長していく様は子供達にも障がいを持った人達への思いやりを育んだ事と思います。

予告：11月1日(土) 稲田園

稲田園において80歳以上の高齢者、65歳以上のひとり暮らしの「お年寄りを囲む会」を開催いたします。楽しい企画を用意しておりますので、多数の方々に参加して下さいますようお願いしております。

耳の聞こえない「まあちゃん」とおばあちゃんの心暖まるふれあいと家族を描くー!
★教育映画祭優秀作品賞受賞★

がんばれまあちゃん

役員名簿

平成20年度 鵜沼第一連合支部

収支予算

Table of staff members with columns for position (役員), name (氏名), and district role (地区での役職). Lists various roles like school principal, branch chief, and committee members across different districts.

収入の部

単位:円

Income budget table with columns for category (科目), budget amount (予算額), and notes (備考). Includes items like '繰越金' and '交付金'.

支出の部

単位:円

Expenditure budget table with columns for category (科目), budget amount (予算額), and notes (備考). Includes items like '事業費' and '共通通費'.

平成20年度 鵜沼第一連合支部

年間事業計画

Annual activity plan table with columns for month/year (年月) and activity content (事業内容). Lists activities like '役員会' and '高齢者' events throughout the year.

※古市場町(月2回)、南町・小伊木(月1回)では、ボランティアハウスの行事を行います。 ※本事業計画については、関係団体との調整によって実施時期が変更になる場合があります。



社会福祉協議会 鵜沼第一連合支部長 田井 昌弘

福祉に思うこと

皆さんは福祉という言葉を知っていますか。私には現在十八歳になる長女がいますが、一歳のとき髄膜炎を患い、知的障がいやてんかんという病気を患っている為、真つ先に障がい者福祉を思い浮かべてしまいます。障がい者手帳の取得を始め、小学校入学前には、現在の福祉の里の前身である小鳩園に通い、小・中学校では基本学級に通うなど様々な福祉制度を利用して戴いていきます。それらの制度があったおかげで、娘が成長する事が出来たのだと感謝しています。また、福祉フェスティバルや福祉連合会などに参

加する事によって、各種団体の方々とも交流がもたれ、障がい児を持つ親として、沢山の方たちに支えてもらっているのだと心強く思いました。その影響か次女が福祉に興味を持ち、現在福祉の道を歩もうとしております。ある日、次女から「福祉に関する記事の切り抜きをするんだけど、福祉に関する記事ってどんな記事？」と質問された。「障がい者や高齢者に関するものがそうじゃないか？」と答えると、娘は、「それだけ？」と聞き返したのです。それだけじゃないとわかっていても、具体的にこれだと言えず答えずに困ってしまいました。

そこで、福祉という言葉調べてみると、「福祉」は「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味することとか、社会のすべての人が幸福で安定した生活を営むことと書いてありました。福祉という言葉はとても広い意味があるのに、自分が狭い意味でしか理解をしていない事に気がつきました。私は娘が障がい児になって初めて障がい児の親となり、何もかもが初めての事ばかりで無我夢中で子育てをする十八年間でした。その間、ずいぶん福祉のお世話になりましたが、娘に関する以外の福祉には目を向ける余裕がありませんでした。もちろんこれからは福祉のお世話になるわけですが、障がい児の親としては、少し余裕が出てきたかなと思える様になり、娘とは離れたところでの福祉活動にも参加していきたいと考えています。私が福祉に関わることで、少しでも恩返しが出来ればと思います。